

92年甲子園・明德義塾の4番、明治安田生命・ 岡村監督が初陣飾る 六大学社会人対抗戦

4/3(土) 14:44 配信

スポニチ
Sponichi Annex



<法大・明治安田生命> 9回1死一、二塁、泉沢の勝ち越し3点本塁打で
生還した（左から）福岡、金子を出迎える明治安田生命・岡村監督（同3
人目） = 撮影・河野 光希

◇東京六大学・社会人対抗戦第2日 明治安田生命 4—3 法大
(2021年4月3日 神宮) 4月1日付で明治安田生命の新監督に就任した岡村憲二監督(46)が初陣を飾った。1点を追う9回1死一、二塁から4番・泉沢涼太外野手(27)がバックスクリーンへ逆転3ランを放ち快勝。「泉沢はよく打ってくれました。昨日選手に挨拶し、きょうが初めての試合。10年ぶりの現場復帰だし知っている選手はいませんが、コーチともうまくコミュニケーションをとれました」と会心の試合を振り返った。高知・明德義塾一専大を経て明治安田生命に入社。92年夏の甲子園2回戦、石川・星稜戦には「4番・一塁」で出場した。チームは勝ったものの、松井秀喜氏(巨人など)を5敬遠し、物議を醸した試合だ。岡村監督は当時「背番号1」ながら右肘を痛め、登板を回避。もしコンディション万全なら歴史は変わった…との質問には「チームでも(敬遠策は)同じだったと思います」と話した。勝負への厳しい姿勢は指導者になっても変わらない。激戦区の東京ならなおさらだ。「甘いことを言ってもらえないでしょう。相手の嫌がる存在になりたい」と岡村監督。チームは長野大会を経て日本選手権予選に臨む。